

文部科学大臣からの手紙

「いじめゼロ子どもサミット2012」実行委員代表のみなさん

香川県のみなさんのすばらしい取組についてお手紙をいただき、ありがとうございました。お手紙を読んで、みなさんが考え、感じたことがよく伝わってきました。とても心強くなったり、心が温かくなったりしました。

みなさんは、3年前の前回のサミットから長い時間をかけて今年のサミットの準備をするなど、いじめゼロ子どもサミットへの関わりを通じて、多くのことを学んだと思います。一つの目的に向かって、なかまと協力して取り組むこと、お互いに意見を出し合って話し合うこと、その過程ではなかまを大切にすることを学んだことでしょう。そして何よりも、いじめはいけないことという、一番大事なことについて、強い思いを持つに至りました。こうしたみなさんの一生懸命な取組や、それによるみなさん自身の成長は、周りに希望と感動を与えるものです。

いじめや子どもの自殺についての報道が続いており、文部科学大臣として、とても心を痛めています。子どもの命を守ることが文部科学大臣の使命と考え、私もみなさんと同じように、いじめをなくすために何をしたらよいか真剣に考え、文部科学省としてできる限りの方策を行ってきました。それでも、みなさんのような小・中学生が「いじめは絶対に許さない」と強く思うこと、そしてそうした思いの『わ』を広げていくことが、いじめをなくすための何にも勝る方策であると強く感じています。今回みなさんからのお手紙をいただいて、みなさんのアイデアも参考にして、どうすれば一人でも多くの同じ思いを持つなかまを作ることができるのか、もっともっと考えていかなければいけないと思っています。

みなさんも、このいじめの問題をこれからもみなさん自身の問題として考え、みなさんの周りに『わ』を広げるようがんばってください。私たち文部科学省もみなさんと一緒にがんばります。

平成24年9月28日

文部科学大臣 平野 博文